

JForest

栗駒高原森林組合だより



やまびこ

第 43 号

令和 5 年 12 月 1 日

発行・編集

栗駒高原森林組合

栗駒桜田街道西11の96

TEL(0228) 45-3311

FAX(0228) 45-3312

<http://kurishin.ec-net.jp>



救助訓練 (5 頁に関連記事)

目

次

- ◇組合長挨拶…………… 2
- ◇功労者表彰・産業功労受賞…………… 3
- ◇全国苔フェスティバル in 栗原 2023 …… 4
- ◇令和 5 年度 森づくり・木づかい表彰式… 5

- ◇災害時の救助訓練…………… 5
- ◇スマート林業実演研修会…………… 6
- ◇新規採用現場技能者紹介…………… 6
- ◇係より…………… 6

栗駒高原森林組合が「現代林業」に紹介されました。



代表理事組合長
佐藤 則明

全国林業改良普及協会が発行している月刊誌「現代林業」令和5年7月号に「栗駒高原森林組合」が特集記事で取り上げられました。「若者を惹きつける林業事業体へ、ユースエール認定企業事例集」という特集です。新規採用者のみで構成された「緑の育成班」を組織するなど独自の人材育成制度を設け就労条件の改善に取り組むことで、新規技能者の確保と高い定着率につなげ、ユースエール認定を取得し、更なる発展を目指している「森林組合」と言う特集です。概要は以下にまとめました。

(原文は7ページです)

1 事務職員及び現場技能者の構成

(年齢等は令和5年4月1日現在)

(1) 事務職員の構成

事務職員は21歳から64歳の20名で平均年齢は37・6歳となっています。構成は表1のとおりで、20歳前半から30歳代の若手が75%、60歳代が15%となっています。仮

表1 事務職員の年齢構成



表2 現場技能者の年齢構成

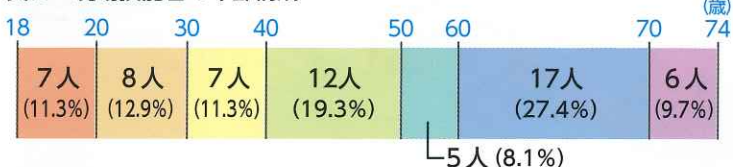


表3 過去10年間の現場技能者採用者数と離職者数 (単位: 人)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4	R 5	計
18~19歳								2	2	5	9
20~24歳								1 ^③			4
25~29歳								1	①		2
30~34歳	2			1	2		1	1			7
35~40歳				1							1
41歳~	3	1	1 ^①						①		7
計	5	1	2	2	2	0	1	8	4	5	30
離職者数 (離職年)	1 (H29)	0	0	2 (R3) (R5)	0	0	0	0	0	0	3

※○は経験者

(2) 現場技能者の構成

新規採用が全くないケースでも10年後・20年後とも職員数が大きく減少することは避けられますが、長期的には安定的な採用、若手職員の育成と定着を重要な課題と捉えております。

現場技能者は18歳から74歳までの62名で平均年齢は46・5歳です。年齢構成は表2のとおりで、50歳未満は55%と半数以上を占めています。

(3) 直近10年間の採用者数と離職者数

表3のとおり直近10年間の新規採用者数は30名で、うち未経験採用者は24名です。年齢は高校新卒者9名を含め18歳から50

ます。勤続年数10年未満が約半数を占めているので若手職員の着実なスキルアップと定着に加え、安定的な採用を続けていく必要があります。

2 求人活動、人材育成、就業条件への配慮

(1) 積極的な求人活動

以前から求人はハローワークが主体でした。しかし表3のとおり平成27年頃から5年間で7名の採用に留まっており人材確保に危機感をいだいてきました。対策として

- ① 高校・専門大学の訪問
- ② 知人・友人への勧誘
- ③ ハローワークでの積極募集
- ④ ホームページやジョブフェア等での広報活動
- ⑤ 全体朝礼等で職員・現場技能者等に募集の声掛けを続けました。

結果令和3年度に8名、4年度に4名、5年度に5名と3年間で17名の現場技能者の採用となりました。うち高校新卒9名を得ました。特記すべきは現場技能者からの推薦が6名あったことです。自分達の職場環境に対しての評価であると感じました。

② 新規現場技能者の人材育成

新規現場技能者に対しては道具類の無償貸与を行い「緑の育成班」という新人教育班を立ち上げ1年間、ゼロから基本技術の習得、安全教育を徹底しています。加えて国の緑の雇用制度を活用し、3年間幅広く研修を行って必要な資格は全部習得します。配属班は本人の希望も考慮しています。

③ 就労条件等への配慮

現場技能者においては、賃金は日給月給の出来高払いですが、就業時間は実質1日6・5時間で週39時間労働。雨天の場合は有給可能。残業はゼロの就業条件です。ここ数年においては、基本給の底上げ、通勤手当の見直し、賞与支給の増額を行ったほか移住者(3年間で現場技能者4名、事務職員1名)には住宅手当を支給しています。

④ ユースエール認定

令和4年9月にユースエール認定企業になりました。「ユースエール」とは若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業を厚生労働大臣が認定する制度です。これを継続することは容易なことではありませんが、組合の活性化に繋がることと確信し、引き続き企業環境整備に取り組んでいきます。

⑤ ユースエール認定企業についてはやまびこ第41号で掲載済

「経営資源」の一番は①人です。専門の技術、知識、想像力を備えた人材育成が欠かせません。他には②モノ、③カネ、④情報などが重要です。しかし一番は人です。お金と時間をかけて大切に育てていきます。

今後も組合員皆様のご支援、ご協力をお願いします。

全国森林組合代表者大会 功労者表彰

令和5年10月24日(火) / 東京銀座プロッサム中央会館

去る10月24日東京銀座プロッサム中央会館を会場に、全国森林組合代表者大会が開催されました。開催に先立ち表彰が行われ、功労者表彰として現場技能者の文字林産班班長 石川忠昭氏が受賞されました。

大会ではカーボンニュートラル社会の実現や森林資源の適正な管理・利用に向け、森林組合系統運動「Jforestビジョン2030」推進の機運を高めるとともに、森林整備事業をはじめとした必要予算の安定確保や森林環境譲与税の譲与基準見直しを強く訴え、大会を終了しました。



令和5年文化の日表彰 産業功労受賞

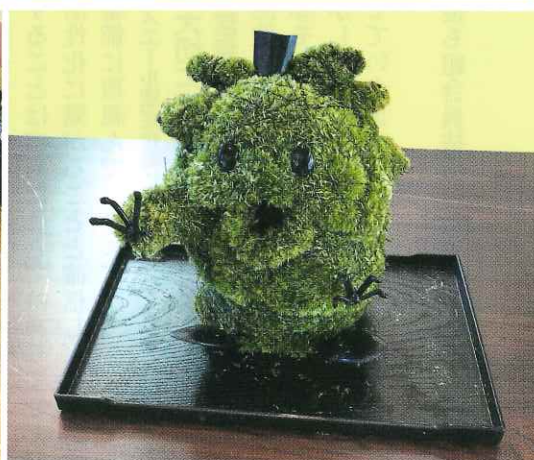
11月1日に仙台市の東京エレクトロンホール宮城において宮城県文化の日表彰式が行われ、森林組合理事の狩野周一氏が多年に亘り団体の役員として事業の推進に努め、地域林業の振興に寄与し産業功労を受賞されました。

狩野理事は平成15年3月より現在に至るまで森林組合理事として永年に亘り在職(20年8ヶ月)し、組合事業及び子会社の指導に精励し地域の森林造成、森林整備事業の推進と緑化推進に尽力され受賞となりました。

受賞、おめでとうございました。



全国苔フェスティバルin栗原2023



全国で唯一となる苔の祭典「全国苔フェスティバルin栗原2023」が、10月28日(土)栗駒山麓ジオパークビジターセンターを会場に、宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所、栗原市、一般社団法人栗原市観光物産協会、栗駒高原森林組合の実行委員会で開催しました。

当日は、4年ぶりの開催で紅葉時期と好天にも恵まれ、約1,000人の多くの方々が来場されました。苔の商品展示・販売も行われ、未知の苔を紹介することができました。特に、ワークショップの苔テラリウムや苔玉づくり、苔の育成体験は、腕に自信を持った方々が興味津々と楽しそうに体験していました。

全国から苔事業者14者参加され苔の知識と技術向上の情報発信と、オープニングイベントでは

市内の築館薬師太鼓奉賛会が活気あふれる太鼓を披露し、地元地域のふれあいの場として盛り上げてくれました。

フェスティバルは、「くりはらの苔」の認知度向上と販路開拓を図るため、県内及び県外の苔関連業者や苔生産者が集い、栗原地域における苔栽培等の取り組みを発信するとともに、苔玉や苔テラリウムの展示・販売・製作体験・苔栽培の講習・体験など苔の魅力を体感できるイベントとして開催しました。

閉会式では、森林組合代表理事組合長より、苔の魅力をここ栗原の地から、全国に発信していくことを決意する大会宣言で全国苔フェスティバルin栗原2023の幕を閉じました。

皆様のご来場、ありがとうございました。

令和5年度 森づくり・木づかい表彰式

11月22日に宮城県庁で「森づくり・木づかい表彰式」が行われました。これは、森づくりや木材利用に対する県民等の参加及び理解の促進を図るため、みやぎ森と緑の県民条例に基づき、森林づくり並びに林業及び木材産業の振興に関し特に功績があると認められた当森林組合に、感謝状が贈呈されました。



【評価のポイント】

組合経営の抜本的な見直しを行い、平成24年度には約8,000m³だった年間素材生産量を、コロナ禍やウッドショックにより木材需要が低迷する中、令和4年度には約43,000m³まで伸ばしており、県内で唯一、飛躍的な生産量の増加を成し遂げた。

計画的かつ安定的な素材生産体制の確立と収益性の向上による持続可能な森林施業の集約化と実践、生産コストの低減や流通体制の構築などにより、県産材の利用促進を着実に達成している。

災害時の救助訓練を行いました

10月12日に栗原消防署の方々を講師としてお招きし、森林組合事務所にて災害時の応急手当と救助方法に関する講習・訓練を行いました。

業務課職員・現場技能者の班長が参加し、労働災害が発生した際の救助方法や怪我の状態を鑑みでの早期判断の方法、救助車両が乗り入れ可能な場所まで怪我人を搬送する方法等の専門的な知識を、我々林業従事者が活用しやすいように分かりやすく実践を交えて指導していただきました。特に、身近にある道具や持ち物を利用して救助活動を行う方法は、作業現場(山林の中)で災害が起きた際に個人個人が有効な行動をとるための大変有意義な知識となりました。

日々安全第一に作業に取り組む中でも、このような知識・技術を事前対策として身につけることで、災害時の被害を最小限にとどめることを目指していきます。



スマート林業実演研修会

令和5年10月19日(木)

宮城北部流域森林・林業活性化センター栗原支部によるスマート林業実演研修会は、支部会員及び林業事業体21名参加のもと、栗駒高原森林組合研修室及び所有林で開催されました。

講師には、株式会社竹谷商事仙台営業所 技術営業主任 宮本俊輔氏を招き、地理空間情報やICTロボット等の先端技術を活用し、森林施業の効率化・省力化や需要に応じた木材生産を可能とする「スマート林業」による、森林測量機器及び立木調査機器の実演研修を行いました。



今後、森林測量・立木調査業務においては、森林施業の効率化及び省力化、作業環境の改善等を図るため「スマート林業」が普及することと確信しました。

【森林測量機器=P8HプロフェッショナルGNSSタブレット】

8インチディスプレイで非常に操作しやすいP8HプロフェッショナルGNSS(衛星を利用した測位システム)タブレットは、高性能K803 GNSSモジュールとヘリカルアンテナ及び測地グレードアンテナを搭載し、外部機器なしでセンチメートル単位のRTK(相対測位)測位が可能でGIS(地理情報システム)とRTK測定の両方に革命をもたらします。堅牢で軽量のP8Hは、各測点で4回のボタン操作を行う所要時間は20秒ほどで、使いやすく高精度が得られ地籍、土木また地形測量にとどまらず、データ収集、点検やメンテナンスを含む広範囲なGISプロジェクトに最適な測量機器でした。

【立木調査機器：電子輪尺=Log Manager】

ハグロフ社の電子輪尺と「Log Manager」を搭載したAndroid(グーグル社が開発した基本ソフト)端末をBluetooth(ワイヤレス)で接続し、樹種及び径級ごとに本数をカウントしデータ取得と同時に材積計算ができます。Android端末をアームバンドで腕に装着し、1立木の測定は電子輪尺の操作ボタン1回押すだけで測定は完了です。材積計算は材積パラメータ(変数)設定により各地域・各樹種に対応し現場で材積を把握できます。また、読み間違い、聞き間違い、書き間違いなどのヒューマンエラー(人間の起こすミス)を防止することと、事務所でのデータ入力が必要となり簡素化につながる立木調査機器でした。



係より 組合員のみなさんへ

- 相続加入手続きについて**
組合員が死亡した場合、届出が必要になります。相続加入手続きをお願いいたします。
- 承継加入手続きについて**
組合員が後継者に山林を贈与した場合、届出が必要になります。
- 住所変更について**
組合員が住所を変更した場合、届出が必要になります。
- 栗駒高原森林組合青年部**
女性会員募集中です。

◎詳細については、総務課にお問い合わせ下さい。
0228-45-3311

新規採用現場技能者紹介



藤村 幸徳
令和5年9月1日採用
年齢/31歳
出身地/栗原市一迫

私は、前の仕事を通じて林業に携わりたいと思い、森林組合に転職しました。現在は臨時班に配属になり、先輩方に優しく分かりやすく仕事を教えていただいています。日々とても勉強になり、毎日楽しく充実して仕事をしています。まだまだ覚える事が沢山ありますが、一生懸命仕事を頑張っていきたいです。これからもよろしくをお願いします。